

明治 150 年 記念シンポジウム

京都府文化・産業未来への挑戦（開催報告）

平成 30 年 6 月 4 日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
075-723-4835

京都学・歴彩館では、平成 30 年に明治維新から 150 年の節目を迎えることを記念し、1 月から 3 月にかけて「明治 150 年京都府の文化・産業再興リレー講座」を開催したところですが、この度、今後 150 年先の京都を見据え、何をなすべきか、府民と共に考えるシンポジウムを開催しましたので報告します。

記

- 日 時 平成 30 年 6 月 3 日（日）13:30~16:30
- 会 場 京都府立京都学・歴彩館 1 階 大ホール
- 参加者数 300 名
- 内 容
講 演 (1) 万城目 学 氏（小説家）
「万城目作品における京都の取り扱い方」
(2) 竹中 健司 氏（竹中木版五代目摺師、（有）竹笹堂代表取締役）
「木版印刷 京都の仕事」
(3) 竹田 正俊 氏（（株）クロスエフェクト代表取締役）
「京都から拓くものづくりの未来」

座談会

登壇者：万城目 学 氏、竹中 健司 氏、竹田 正俊 氏
コーディネーター：松田 法子 氏（京都府立大学大学院生命環境科学研究科講師）

■ シンポジウムの様子と当日の参加者の声

近代以降、他の多くの地方都市とは異なり、歴史・文化の中心として独自の地位を築いてきた京都。長い時間をかけて蓄積してきた伝統文化、伝統産業をどのようにして守り伝えてきたのか、そして 150 年先の未来を見つめたとき、先達が遺した偉業の上にもどのようにして京都の新たな魅力を上乘せしていくのか。小説家、伝統と革新の木版画摺師、最新技術を駆使したものづくりの専門家など様々な視点から京都の可能性について講演をいただいた。講演を受けた座談会では、都市史、地域史を専門とする松田法子氏を司会に迎え、京都の魅力とあるべき未来の京都の姿について議論がかわされた。参加者からは「文学・伝統芸能・工業と違う分野の人からの切り口でお話が聞けて良かった。」「それぞれの想いが伝わる内容で良かったです。」「個人がどう臨んでいるのかという話を興味深く聞いた。」と好評を博した。

